



大阪科学・大学記者クラブ 御中

2019年9月30日  
大阪市立大学

## 第2回合同市民医学講座『人生百寿時代』 ～健康寿命増進を目指して～を開催します

大阪市立大学大学院医学研究科は、2019年11月9日（土）にあべのハルカス25階会議室にて、「第2回合同市民医学講座『人生百寿時代』～健康寿命増進を目指して～」を開催します。

本講座は昨年度より、大阪市立総合医療センターと共同で市民の心身の健康の一助となることを目的に実施しています。

今講演では、「高齢化社会に向けた医療者の立場からの日々の運動の重要性」や「切らずに治す新しい手術等」について専門家が分かりやすく解説します。多くの方のご参加をお待ちしております。

- |         |  |
|---------|--|
| 1.日 時   | 2019年11月9日（土）14：00～16：30（開場 13:30）   |
| 2.場 所   | あべのハルカス25階会議室（大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43）<br>Osaka Metro 天王寺駅14番出口、JR 天王寺駅、近鉄大阪阿部野橋駅 直結<br>※17階オフィスロビーフロアにて、低層階エレベーターに乗り換えて25階へ<br>お越しください。 |
| 3.講 演 者 | ①「知っておきたいロコモティブシンドローム」<br>（大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科学 教授 中村 博亮）<br>②「切らずに治す新しい心臓の弁の治療について」<br>（大阪市立総合医療センター 循環器内科部長 成子 隆彦）               |
| 4.対 象   | どなたでも  |
| 5.定 員   | 350名（先着順）  |
| 6.受 講 料 | 無料   |
| 7.申 込 み | 不要   |
| 8.主 催   | 公立大学法人大阪 大阪市立大学大学院医学研究科・医学部医学科<br>大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター  |
| 9.後 援   | 大阪府医師会・大阪府・大阪市   |

### 【本件に関するお問合せ先】

大阪市立大学医学部附属病院事務局 患者支援課  
担当：大槻  
TEL：06-6645-2857

大阪市立大学大学院医学研究科・医学部医学科

大阪市立総合医療センター

## 第2回合同市民医学講座

# 「人生百寿時代」 ～健康寿命増進を目指して～

**日時** 2019.11.9（土）14：00～16：30（開場13：30）

**会場** あべのハルカス25階会議室（アクセス裏面）

**お申込み** 不要（入場無料・手話通訳有）※先着順

**プログラム**  
総合挨拶 大阪市立大学 学長 荒川哲男  
開会挨拶 大阪市立総合医療センター 病院長 瀧藤伸英

### 1. 「知っておきたいロコモティブシンドローム」

座長 大阪市立総合医療センター 副院長 山根孝久  
講演者 大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科学教授 中村博亮

### 2. 「切らずに治す新しい心臓の弁の治療について」

座長 大阪市立大学大学院医学研究科長 大畑建治  
講演者 大阪市立総合医療センター 循環器内科部長 成子隆彦

閉会挨拶 大阪市立大学医学部附属病院 病院長 平田一人

主催 / 公立大学法人大阪 大阪市立大学大学院医学研究科・医学部医学科  
大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター

後援 / 大阪府 大阪市 大阪府医師会

お問合せ / 大阪市立大学医学部附属病院  
患者支援課 ☎ 06-6645-2121(代表)



# 知っておきたいロコモティブシンドローム

大阪市立大学大学院医学研究科  
整形外科学教授  
中村博亮

65歳以上のいわゆる高齢者の方の人口比率は27%をこえ、超高齢社会が到来しました。日本における男女の平均寿命は世界一ですが、平均寿命と健康寿命との間には男性で9年、女性で12年の乖離があります。この乖離期間は介護が必要な期間ということになりますが、その原因となるのは、皆様がよくご存知の認知症や脳血管障害よりも、骨折や関節疾患などの運動器疾患がより多くの頻度を占めます。運動器という言葉がわかりにくいかもしれませんが、骨・関節・筋肉・腱・靭帯・神経など、運動に関わる器官や組織すべてをあらわすことばです。それぞれが連携しているのです、どのひとつが悪くても体はうまく動きません。

2007年日本整形外科学会は運動器の障害により移動機能の低下をきたした状態、すなわち歩きにくくなった状態をロコモティブシンドローム（以下ロコモと表記します）とよび、皆様に周知するようにしてきました。ロコモを自己チェックするチェック表や、立ち上がり度テスト、2ステップテスト、ロコモ25という質問票による点数評価などでご自身の状態を知ることができます。この状態が深刻な状態になる前に予防することが肝要ですが、本講演ではその予防に有効な運動方法についてもお伝えしたいと考えています。

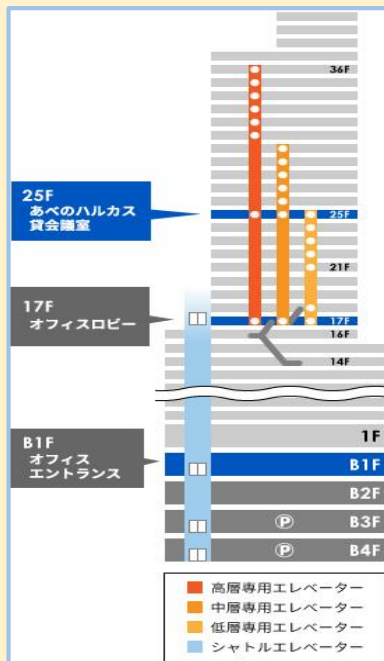
# 切らずに治す新しい心臓の弁の治療について

大阪市立総合医療センター  
循環器内科部長  
成子 隆彦

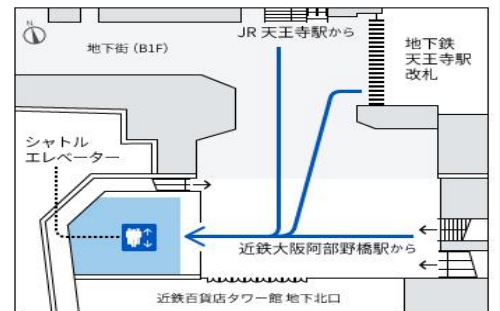
心臓は、拡張と収縮を繰り返すことで、身体中に血液を循環させる、ポンプのような役割を、1日におよそ10万回も繰り返しています。心臓には、「右心房」「右心室」「左心房」「左心室」という4つの部屋があり、一方通行で流れるために部屋と部屋との間に弁（一方弁）が合計四つあります。右心房と右心室の間の弁を「三尖弁」、右心室と肺動脈の間の弁を「肺動脈弁」、左心房と左心室の間の弁を「僧帽弁」、左心室と大動脈の間の弁を「大動脈弁」といいます。心臓にある弁に障害が起き、本来の役割を果たせなくなった状態を「心臓弁膜症」といいます。心臓弁膜症には大まかに2つのタイプがあります。「狭窄」は弁の開きが悪くなって血液の流れが妨げられる状態です。「閉鎖不全」は弁の閉じ方が不完全なために、血流が逆流してしまう状態です。心臓弁膜症はどの弁でも起こりますが、とくに「大動脈弁」と「僧帽弁」に多く起こる疾患で、高齢化社会にともない、年々、増加しています。

これまで弁膜症の治療は、侵襲的（”体にとって害のあること”）な治療、つまり体にメスを入れて、胸を開けて治療を行ってきました。最近、カテーテル治療の進歩が著しく、カテーテルを用いた弁膜症の治療が可能になりました。カテーテル治療は、胸を開けることなく、また心臓を止めることもありません。高齢で体力が低下している患者さんや、その他の疾患を持つ患者さんにも適しており、患者さんへの体への負担が少なく、入院期間が短いことが特長です。今回は、切らずに治すカテーテルを用いた新しい心臓の弁の治療についてお話しします。

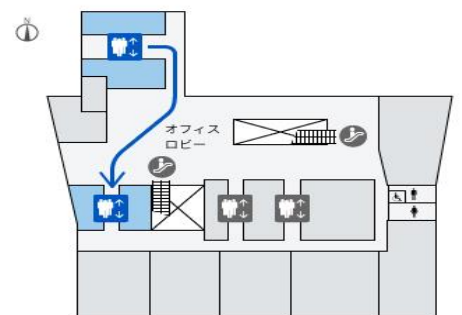
## あべのハルカス 25階までの道のり



1 近鉄百貨店タワー館地下北口となりの【地下1階】エレベーターに乗って17階へ。



2 17階で一度降りて、エレベータを乗り換えます。オフィスフロア用の【低階（17-25F）用】エレベーターに乗って25階へ。



3 25階で降りれば、受付です。